

第295回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成25年2月18日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
佐野 晃之	委員	福島 聡	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	室川 治久
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	竹石 尚史
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	須山 司
事務局	中川 保彦
	紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

「リングに咲く紅の花

～女子プロレスラー里村明衣子・戦う理由～」

〔放送：12月29日（土）16時25分～16時50分〕

（説明：報道制作局 須山 司）

2) 会社報告

① 1月の視聴者の意見。 （報告：番組審議会事務局）

② 講じた措置、公表など定例の報告等。（報告：番組審議会事務局）

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組の企画経緯について、里村氏がプロレスに15歳で入門した時から定期的取材してきたことと、今回里村氏が社長・営業・プロデューサーとして旗揚げしたプロレス団体が初めて新潟興業を実現することに合わせ番組を企画したことが説明された。

また合評で委員から、ナレーションで伝わりづらいところがあった、もっと掘り下げて見たかったという評に対して、限られた時間でまとめる難しさを感じた、もっとコメントでわかりやすく伝えられるところもあったと感じている、

また、長い間取材してきたものが形となって放送できたことは良かったと考えている、と説明した。

●人間としての里村明衣子を短い時間のなかで丁寧にまとめていて生き方がしっかりと伝わってきた。

●柔道からに入門したきっかけが、プロレスを見たことがきっかけと言っているが、そんなに単純にのめりこめるものかな、それだけだったのかなと疑問に思った。

●「戦う理由」という題名だが、プロレスに限らず夢をもって、それに向かって努力をしていることにすごく情熱を感じた。挫折を乗り越え、またこれから人を育てて行くと言っており里村さんの生き方が伝わってきた。

●ジャイアント馬場さんは新潟出身でプロレスという枠を超えたすごい人だという意識はみんなにあると思うので、馬場さんと照らして見られたらプロレスをよく知らない人も見やすかったと思う。

●里村さんは知らなかったが、今回の番組で彼女自身に興味を持ち応援してゆきたいと思えた。

●高校生の子供と番組を見たが、女子プロレスが華やかな時代を知らない世代で、説明したら「だからこの人はプロレスの世界に飛び込んだんだ」とようやく分かった様子で、今の高校生では想像を超えていることだということが面白かった。

●中学 3 年生の時にプロレスを初めて見に行ってナレーションでは「心を揺さぶられ」といっているが、プロレスの何が心を揺さぶったのかが分らなかった。

また、所属していた団体が解散をして自分で新しい団体を立ち

上げ、本人の言葉として「プロレスの力を開花させたい」という表現が出てくるが、見ている側には「プロレスの力」とは何なのかがわからない。

●スポーツ選手としてならスポーツに絞り込む。また、本人の人生の20年間を描こうというのであれば、スターになりたかった少女から、大人になった本人の内面的な成長に絞り込んだほうがよかった。

●本人を支える方が何人か出てくるが肉親やもっと近い方、彼女の人生をそこに持って行った方のコメントが聞きたかった。

●東日本大震災のあと苦しい中トレーニングをしていたというコメントもあったが、彼女なりに苦労していたことの印象が薄かった。震災後どんな苦労をしていたのか番組として言葉のフォローをしたほうが良いと感じた。

●「プロレスを通じて楽しさを伝えたい」というコメントがあったが、子供たちを楽しそうに指導し子供たちも喜んでいるという面で非常に社会貢献度が強いと感じた。入門した運動能力の低い子達を何とか指導してマットでデビューさせ、彼女たちも涙を流して喜ぶというひとつの人間形成だと思うが、その過程は描かれていなかった。教育的な面もコメントしたら良かったのではないかな。

●無気力が社会に蔓延している中で、子供たちに頑張っている人のストーリーを伝えてゆくことは大変大事なことだと思う。昔ながらの立身出世物語は受け入れられにくくなっているなかで、女子プロレスという題材は子供や若者も楽しくみてもらえそうだったと思った。

●友人との会話の中で、恋をして結婚をして子供を産んでとい

う「彼女たちの生き方は素敵だと思う」という発言が素直な言葉に聞こえ、友人も女子プロレスをやっている友人の生き方を「素敵だ、応援したい」と言っているやりとりが良かった。

それぞれの生き方、夢や希望があり苦しいこともあるが、人をうらやまずに自分の生き方でがんばるし、ほかの生き方も応援するということを象徴的に表す題材だと思う。

●「私に人生を託す女の子が３人もいる、だから私は新しい団体を旗揚げするんだ」と言っていた。自分がやっている仕事にあこがれて、私もそういう仕事に入りたいという後輩たちが「やりましょうよ」と言ってくれた時は人生にとってすごく素晴らしいことだと思う。どのスポーツも仕事もそうだと思う。このセリフを聞いたとき彼女の人格がこの言葉に表れていると感じた。

●この番組はプロレスファン、里村選手のファンのためのアルバムではないかという気がした。ファンの人がファンの人なりに解釈してゆく。そこにいろいろなストーリーができる。しかし軸になっているのは「プロレス」であり「里村」という選手なんだと。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月…… 228件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成25年1月28日)から 昨日(平成25年2月17日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放

送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

1) 前回、第 294 回審議会では

「夕方ワイド新潟一番 年末 2 時間半スペシャル」

を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

8 今回の第 295 回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 1 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 1 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（2/3, 2/13 号）

以上